

まび野

(公財)岡山県郷土文化財団
2025. 夏 第172号



赤松麟作『串本』 昭和十三年（一九三八）

油彩・カンバス六〇・六×八〇・九cm（岡山県立美術館蔵）

赤松麟作（一八七八～一九五三）は津山市の生まれです。五歳で一家とともに大阪に転居し、山内愚僊（一八六六～一九二七）から油彩画を学びました。そして草創期の東京美術学校（現在の東京藝術大学）西洋画科を一八九九年に卒業します。帰阪してからは画塾を開くなど、画壇の発展に大きく貢献しました。風景画だけでなく、風俗画、人物画、裸婦像、静物画など、いろいろな画題を万遍なく取り上げています。東京美術学校では、師の黒田清輝（一八六六～一九二四）から、写実を重視しつつ、光と気象の微妙な変化を明るいい色使いで描くことについて学びました。

串本の奇岩として知られる橋杭岩と、その周辺を描いた作品です。遠景の海は鮮やかな水色で、橋杭

岩の陸側にある前景の干潟は落ちて着いた鈍い色です。かすれる筆遣いが干潟の情景をよく伝えていて、橋杭岩の影が干潟に映っています。全体は紫がかった色調ですが、照り返しや影の部分にさまざまな色加わりました。浜辺で遊ぶ人々が点景で描かれています。行楽日和の風景画です。

大阪に住む赤松にとって、南紀は気軽に行ける景勝地でした。住まいの大阪、そして南紀、奈良など関西地方のほか、三保の松原、穂高岳、桜島など国内各地を旅行して、多くの風景画を描いています。季節や時間の移り変わりをたどりながら、旅のなかで絵画を制作しました。

（岡山県立美術館主任学芸員 廣瀬就久）

目次

表紙説明	1
随想二題	3
後楽園雑感	（千葉喬三）
わたしの師匠	（寺田勢司）
岡山の人物	4
後藤勝基	（森 俊弘）
岡山の自然	5
立岩	（日下隆春）
岡山の文化財	6
両宮山古墳	（有賀祐史）
わが町・わが村の自慢	7
備前市美術館	（備前市伊部）
ふるさとの想い出	8
伯備線倉敷・美袋間の開業百年	（倉敷市・総社市）
文化財団ニュース	9
催しのご案内	11
会員だより	12
ご案内	13
題字	14

岡山県郷土文化財団
元理事長 長野 士郎

ご案内

「和文化体験」・「伝統工芸ワークショップ」講座開催

八月開催の後楽園夜間特別開園「幻想庭園」の関連行事として「和文化体験」を後楽園鶴鳴館で次のとおり開催します。

また、気軽に参加できる県内各地の伝統文化や工芸などを取り入れた「伝統工芸ワークショップ」や文化講座も予定しています。詳細は決定次第、文化財団ホームページなどでお知らせします。

皆さまのご参加をお待ちしています。

和文化体験

①八月三日(日)「和漆色絵付」

漆芸家

日本工芸会正会員

塩津容子

②八月四日(月)「琴」

箏曲三上社副宗家

三上澄之

③八月五日(火)「三味線(民謡)」

民謡家みずほ倶楽部

(民謡研究所) 主宰

田中みずほ

④八月六日(水)「礼法」
全日本作法会家督

吉井睦美

⑤八月七日(木)「茶道」
茶道裏千家教授

堀田宗喜

⑥八月八日(金)「折紙」
日本折紙協会認定折紙講師

片岡元子

「日本画」

倉敷芸術科学大学

助教

原田よもぎ

技術補助員

潮 嘉子

⑦八月九日(土)「華道」

日本いけばな芸術協会

特別会員

華道専敬流教授

小野和代

⑧八月十二日(火)「烏城彫」

烏城彫協会

スミス一三省吾

木口ダイアンドレ

伝統工芸ワークショップ

①七月三十日(水)

「撫川うちわ作り体験」

撫川うちわ保存会

②十一月一日(土)

「神代和紙ワークショップ」

神代和紙保存会

③十一月十九日(水)・二十一日(金)

「作州緋体験」

作州緋保存会

『岡山後楽園

殿様の御馳走帖』覚書

江戸時代の後楽園の管理記録「御後園諸事留帳」から献立を調査し、つくり方のほか、その日の出来事を紹介し、殿様が過ごした一日を料理で追体験できる本として好評の『岡山後楽園殿様の御馳走帖』ができるまでの経緯について語った文化講座の講演録を『岡山の自然と文化』四四号に掲載しています。

このたび、文化講座の内容にカラー口絵を加えた別冊を販売することになりました。

後楽園での殿様の御膳はどのようなに整えられたか、食材との関係は？などをより深く知ることができます。
価格 三百円(税込、送料別)

お問い合わせ先

岡山県郷土文化財団
電話

〇八六一三三三―二五〇五

文化財団広報(第一七二号)

発行 (公財)岡山県郷土文化財団

岡山市北区表町一七―十五

☎(〇八六)二三三―二五〇五

発行日 令和七年六月三十日